

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成31年 1月24日（木）

2 確認箇所

G3タンクエリア

3 確認項目

ストロンチウム処理水の溶接型タンクから硫化水素が検出された事象の対応状況

4 確認結果の概要

平成30年8月27日に多核種除去設備入口にてストロンチウム処理水の定例サンプリングを実施したところ、濁りと異臭が確認された。これを受けて、溶接型タンク内のSr処理水をサンプリングした際に、G3-E1タンク内部から硫化水素が検出された。（12月13日公表）

東京電力は硫化水素に起因する全面腐食については、タンク側面及び天板の肉厚測定の結果、問題ないことを確認したが、念のためタンク1基の水抜き・内面調査を実施し、硫化水素発生の原因調査等を実施することとしている。

本日、当該調査の進捗状況等について現場確認を行った。

- ・G3タンクエリア堰内への入口には硫化水素がタンク内に滞留しているため、不用意にタンクを開放しないよう注意する掲示がされていた。（写真1）
- ・E1タンクの内面調査を今後実施する予定となっており、その水抜きにあたりG3タンクエリア内のG3-F4タンクへ抜いた水を移送することになっている。本日は移送先となるタンクの内面点検が実施されていた。
- ・移送先となるタンクの側板マンホールが開放されており、マンホールの周囲は汚染防止のため養生が実施されていた。（写真2）
- ・現場の作業員からタンク間への水移送時の漏えい防止対策について聴取したところ、移送時はホースを二重化し、ホース同士の継手部には漏えい拡大防止用に受けパンを設置するとのことであった。



（写真1）



(写真2)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。